

# 7月22日の日食情報

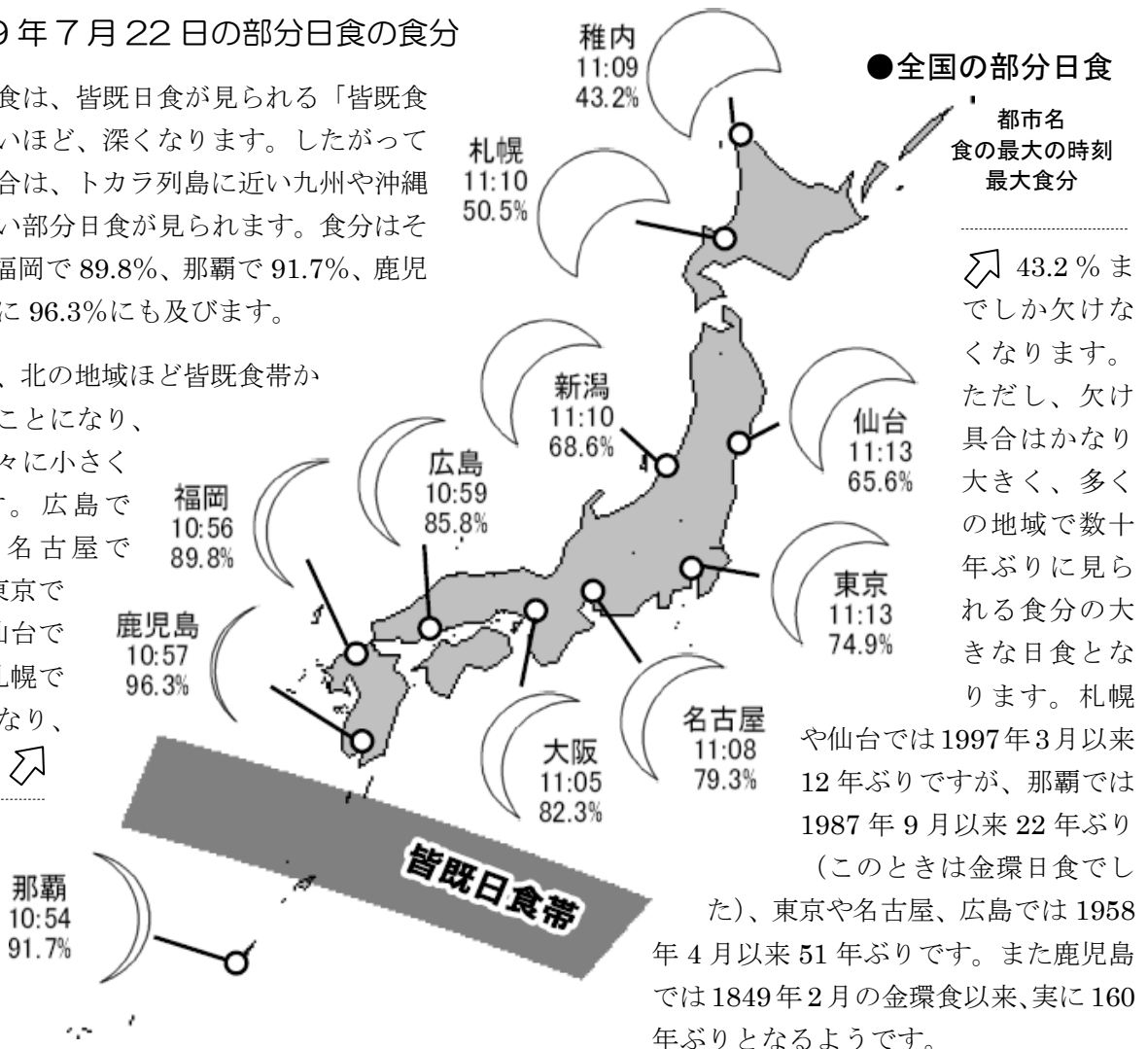
## Vol.2 ～ 全国で見られる部分日食 ～

7月22日は、46年ぶりに日本の陸地で皆既日食が見られます。しかし、皆既日食は、月の影が地球に届いてできる細長い地域（皆既食帯と言います）でしか見られず、今回の場合、トカラ列島や屋久島などの島に限られてしまいます。一方、日本全国では部分日食が観察できます。太陽が月によって隠されて欠ける日食は、その月の入り具合である「食分」というもので、その程度を知ることができます。東京では、1958年4月19日に見られた部分日食以来の食分となり、太陽の直径の約75%まで月が入りこみます。

### ●2009年7月22日の部分日食の食分

部分日食は、皆既日食が見られる「皆既食帯」に近いほど、深くなります。したがって今回の場合は、トカラ列島に近い九州や沖縄などで深い部分日食が見られます。食分はそれぞれ、福岡で89.8%、那覇で91.7%、鹿児島では実に96.3%にも及びます。

一方で、北の地域ほど皆既食帯から離れることになり、食分は徐々に小さくなります。広島で85.8%、名古屋で79.3%、東京で74.9%、仙台で65.6%、札幌で50.5%となり、稚内では



### ●全国の部分日食

都市名  
食の最大の時刻  
最大食分

43.2%までしか欠けなくなりません。ただし、欠け具合はかなり大きく、多くの地域で数十年ぶりに見られる食分の大きな日食となります。

札幌や仙台では1997年3月以来12年ぶりですが、那覇では1987年9月以来22年ぶり（このときは金環日食でした）、東京や名古屋、広島では1958年4月以来51年ぶりです。また鹿児島では1849年2月の金環食以来、実に160年ぶりとなるようです。

### ●東京での部分日食の様子

東京では、9時55分に月が太陽を隠し始め、日食開始となります。その後1時間以上かかって日食は進行し、最も欠けるのはお昼前の11時13分です。このときの太陽は、南南東の空高く（地平高度約75度）にあり、ほぼ天頂（頭の真上）と言ってもいい位置です。その後月は太陽から離れ始め、12時30分に日食が終わります。

ちなみに、欠けていると言っても部分日食の太陽を直接見るのは大変危険です。専用の日食メガネを使うか、投影法を用いるなどして安全に見ましょう。次回は日食の観察方法について説明します。